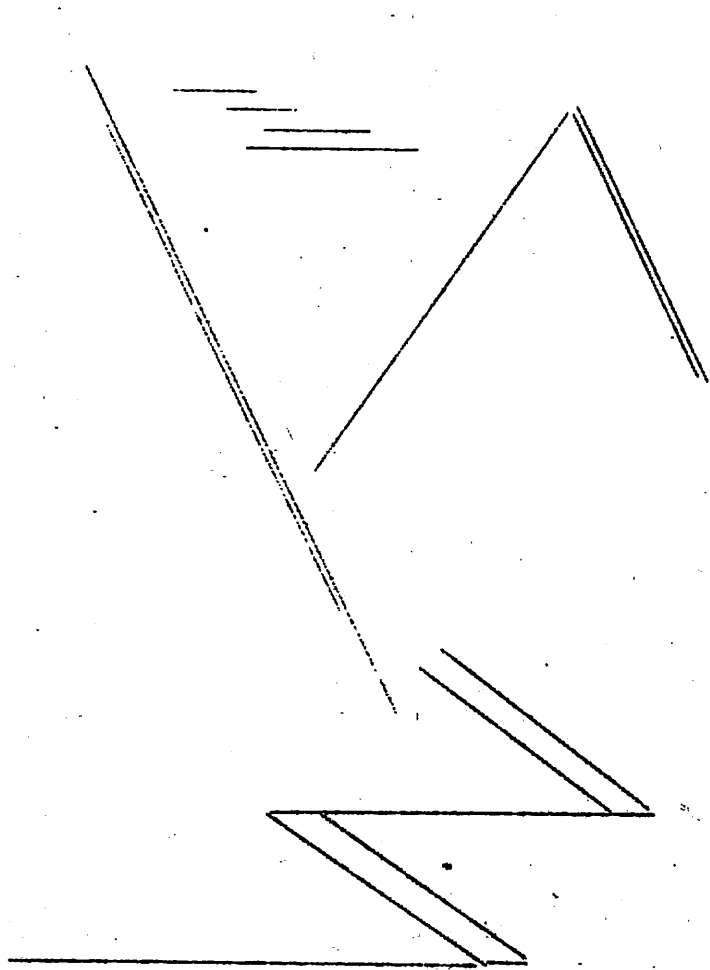


OBA 合報 (仮称)



信州大学松本山岳部O.B.会
信州大学伊那松本山岳部

夏山山行報告 SIMAC 西郡光昭

定着合宿No1. (鉦沢 真砂平)

CL. 川崎. SL. 池田. 装備 松尾. 食料 浦. 香田. 山田. 大川. 小川. 駒井. 三谷. 中村. 工藤
浅田. 神野. 猿橋 (O.B)

7月13日 (晴) 松本 - 富山 - 弥陀ヶ原 荷日の13貫

7月14日 (晴) 真砂平 KBC 設営

15日 (晴の雨) 長次郎 雪溪 雪上訓練 - 鉦岳 - 長次郎 - B.C (池田他)

八峰上半 - 長次郎 (山田. 松尾)

源治郎 尾根 - 長次郎 (川崎. 浦)

16日 (晴の曇) 三, 宍野 雪溪 - 鉦 - 平蔵 - B.C (川崎他)

チンネ 北条ルート - g4ムニ - Cクラブ (香田. 山田)

17日 (晴) 源治郎 尾根 (山田他) 八峰上下半 (川崎. 浦)

6峰 A face 奥津高ルート (池田. 松尾)

18日 (曇) 池, 平仙人池 (川崎他). 6峰 C face R.C.C ルート (池田. 松尾. 浦)

6峰 A face 中スルート (山田. 香田)

19日 (曇) 長次郎 雪上訓練 - 八峰上半 (池田他)

チンネ 中央ムニ - Aバンド Cクラブ 1 (川崎. 猿橋)

左方ルンゼ g4ムニ - Cクラブ (松尾. 浦)

20日 (曇) 内蔵助 平 (香田他)

6峰 C face 鉦岳会ルート (猿橋. 池田)

6峰 A face 奥津高ルート (川崎. 浦)

21日 (曇の雨) 真砂平 - 別山 平 休養, 香田. 大川. 浅田 下山

定着合宿No2. (湘沢)

CL. 西郡. SL. 小谷. 玉井 (食料) 砂川. 柴田 (装備). 真野. 坂谷. 田中. 幸田. 西坂. 新谷. 中野

庄子. 水口. 松井. 菅原. 林. 山形

7月14日 (晴) 松本 - 上高地 横尾 辻木 ッカ.

- 7月15日(晴曇) 上高地-沢沢BC設営
- 7月16日(〃) 北尾根4峰下の雪溶と雪上訓練
- 7月17日(〃) 滝谷オニ尾根(小谷.玉井.砂川.柴田)
北尾根下半(泉野池); 北尾根-明神-栗木(西郡他)
- 7月18日(曇の晴) 5.6のツル-3.4のツル(西郡他); 沢沢橋東陵(玉井.砂川)
北穂東陵-奥穂(泉野池中他); 北尾根-栗木(柴田.坂谷他)
※菅原アズキ沢にてグリセード中ラントクルフトに落ち右足骨折
- 7月19日(曇の雨) 北穂-キレット-南岳-横尾本谷(小谷他)
北穂東陵-ジャングル(玉井他)
西郡他は菅原直上高地へ。
- 7月20日(晴) ジャングルへ戻り尾根(玉井.柴田); 3峰(小谷.泉野)
奥又白池-A沢-奥穂(砂川他);
北穂-キレット-南岳-横尾本谷(西郡他)
- 7月21日(ガス) 雪上訓練
- 7月22日(晴) 横尾へ。縦走に目立て休養
小谷.田中.泉野.幸田.西阪.庄子.中郎.新谷は下山

夏山縦走 No.1. (穂-白馬)

[L.西郡. SL 玉井(食料). 砂川. 柴田. 坂谷. 松井. 林. 水口. 山形]

- 7月23日(晴) 横尾-双六池 着の準備が一部に片付く13時向の行動となる。
- 24日(〃) 沢. 水口. 山形 菅原住復。
- 25日(〃) 双六-ワシワ糸-三ツ糸テント場 初日の二本筋をやっている
- 26日(〃) T.S-不動岳-船産 水口. 林下山。12時向のバテ
- 27日(〃) T.S-北岳-針の木峠 船産-蓮ヶ間の高低差の激しい水驚く。
- 28日(雨) 沢
- 29日(晴) T.S.-冷池テント場 後立山の稜線と伏洞にとけず
- 30日(〃) T.S.-白糸 登山者 列でバテかえす中を全覚快調
- 31日(〃) T.S.-白馬 白馬のテント地は東南白く高い上谷ははくすれる。

8月1日(晴) 大雪流至由下下山 残った食料は全部もって下る。

夏山縦走No2 (南アルプス金山)

C.L. 小谷, S.L. 真野, 育田, 石井, 西阪, 大川, 麻田, 幸田

7月25日(晴) 伊那北-戸台-北沢峠

27日(〇) T.S - 仙丈 - 馬鹿尾根 - 雨後

< 26日(晴) T.S ↔ 駒ヶ岳

29日(〇) T.S - 庄後 - 北岳 - 肉の岳

28日(雨) 沈

30日(晴) 肉の岳 - 農鳥 - 肉の岳 - 熊平 - 北沢川岳

31日(〇) T.S - 塩見 - 三伏峠 (麻田下山)

8月 1日(晴の曇) T.S - 鳥帽子 - 高山 露营地

2日(〇) T.S - 荒川岳 - 栗沢岳 - 荒川岳 - 赤石 - 百肉洞

3日(曇の雨) T.S - 大沢岳 - 兎岳 - 聖岳 - 聖平

4日(雨) 沈

5日(曇) T.S - 上河内岳 - 仁田池 - 先岳 - 釜島

6日(晴) T.S - 千頭ダム - 大肉

7日(〇) T.S - 聖泉 - 千頭 - 金谷

夏山縦走No3 (剣 - 平 - 針の木 - 白馬)

C.L. 川崎, S.L. 池田, 山田, 松尾(裝備) 浦(食料) 小川, 三谷, 駒井, 神野, 中村, 工藤

7月22日(晴) 別山平 - 碓氷 - 五色ヶ原 - 平 - 南沢出合

23日(〇) T.S - 針の木峠 ↔ 蓮華岳 工藤, 中村下山

24日(〇) T.S - 撞池

25日(〇) T.S - 五龍小川 冷池にて72.10ギリEカンシ員からパヴラレル

26日(〇) T.S - 天狗池

27日(〇) T.S - 三回境 - 白馬大池

28日(雨) 沈

29日(晴) T.S - 雪倉 - T.S - 信の森上

夏の梨又白合道

〔L〕西郡、小田、本野、葛西、出島、池田、川崎、小谷、小川、新、松尾、峠田

野口(ワラジ会) 金松、猿橋、片岡(いんOB) 南野(わか) 原田(金松氏知人)

8月6日(ガス) 金松、猿橋、原田、小田、本野。入山

7日(晴) 明大ルート(猿橋-小田; 本野-原田-金松)

8日(=) 北条ルート(山田-本野-金松) 北-A壁(猿橋-原田)

西郡他口松高ルンビ下迄下木

9日(ガス、雨) B、C設置 尚約10登ル池下-池 1時間20分の新設位あり。

10日(晴の曇) オ-尾根-B.A face(西郡-新), B.A face(本野-原田)

甲南ルート(猿橋-金松), 五峰東尾根(山田-松尾)

全量で三峰リッジで遊難(下下会堂の遺体発見ヒヤウ双巻)

金松(L)、猿橋、葛西、川崎、池田の着況汲治り

11日(晴) 甲南ルート(山田-原田), 明大ルート→三峰face(出島-新-小川)

5峰リッジ→3峰face(西郡-小谷), 北-A face(池田-松尾)

12日(晴) B.A face(金松、川崎-猿橋), 本野下山

12日(晴) 松高ルート(葛西-小谷), 3峰リッジ(西郡-小川-新)

甲南ルート→3峰face(出島-池田), 明大ルート→3峰face(川崎-松尾)

金松、猿橋、原田下山。野口、南、峠田、入山

13日(晴の曇) B.A face(南、小田-野口), 松高ルート(池田-出島)

甲南ルート(西郡-松尾, 川崎-小川) 3峰face(小川-川崎)

北-A face(葛西-新) 3峰リッジ(小谷、峠田)

14日(=) D7E-A中央ルート(片岡-小田), 松高ルート(西郡-小川)

甲南ルート(小谷-新), 北-A face(出島-松尾-川崎)

明大ルート(野口-池田, 南-峠田)

15日(曇、ガス) 右岩陵圧ルート(山田-池田), 松高ルート(片岡-川崎)

北条ルート(西郡-小谷), 3峰リッジ(寺田-松尾)

北壁コンタ外-A face Bリッジ(出島-小川)

5峰リッジ (新-野口, 南-柴田)

16日(晴)

6峰7エース (出島-池田) : 6峰の5峰側山角4ピッチ(40m)ハ-7=14本。

甲南ルート (川崎-柴田-南)

北条ルート (片田-小川)

回峰正面ルート (小田-小谷) : 北条ルートの右E甲南を2行入り直上するルート

回峰下部から2軍票通り (野口, 寺田, 西邸)

北辰振周遊コース (新)

17日(晴)

B(徹夜 楽しく下山。おほかまわり)。

報告「奥又白特集について」

今年発行予定の部報に奥又白について特集致します。

1. 奥又白の登山人史 (開拓時代、～現在迄 特に関係時代にかき入れる)

2. 又白付近の名所名

3. 現在のルート解説、グレード、登山記。

4. 動植物

5. 池の水質検査

6. 陸奥

7. 又白のアクセシビリティ、遭難

以上について(特)1, 2, 3, 6の資料記録その他原稿等 部報に不送り下刊。

株主募集!!

報告No2発行株式会社

会社内容: 報告No2 (60~100 page 奥又白特集中心=7ラジ会(松高OB)の協力の
もとに奥又白の決定版とするつもり)の発行を主事業とする。

資本金: 10万円。(=25万円に23000円!)

一株500円 できるだけ2株以上

株主には報告No2と懇話会の会をもつて無償でおわけし致します。

9月15日 トリシマラレ役 老いておけすおけす小田

サ-インスタントガ-リ- 別名西郡

△Eマラヤ研究会発足

オクレバセナガラ我部にもEマラヤ熱病に憑った者が出てきて研究会発足の頃
びとなった。Eマラヤ登山史、地理、気象、ネパール、パキスタン等の政治状況、
食料装備、医学、渉外 etc を本ツボツ調べます。O.B.各位の御指導をお願ひし
ます。尚、資料等お知らせ下さいませよう。 K. Yamada, 他

▽ 秋の合宿 10月1日~7日

その1: 奥又白合宿

その2: 鳥船子-狭山-奥又

合宿参加希望の方は松本市県町 支理室部内
山本部迄 連絡下さい。

△E高地にアラワレるO.B.大先輩

窪田天孝: 結婚の発想は?の理役の川に答えて曰うん。そうだな。古い手や若い手
や……やうほり富の方が多いから、に理役一同シヨック。^{チンツウ!}
坂本先生: 奥又合宿の連絡つかず7月下旬手松、大津越えどE高地へ。同期の窪田
さんにはアラツテられ、若返はつろうとしてもつれず!!早くヨリカン
モライマシヨ(理役一同)

金松、猿橋雨美王: 精神秋(徳着のりあじかん)の名コンビ。奥又白合宿へ。

30男のfightに敬意を表す。*どこのパーティーがケガし取るときは申し出にビケガの指導等
できんやないかや。心配だね。痛は楽に取切にしよう。

格さん(片岡氏):今年めでたく卒業してドカタの親分になる。ウイスキー一箱まで
白地へ表われ。バランスの良さはあつかわす。*コワイ連中から驚か
んて衣われて毎日のんぼくれているらうだ。

野口先生:ワラジ念の中ども長老級。50E過ぎてモトトレーニングにはげみまの
を恐るフアイトを手取若いくせに年寄づらIR OB連はみむらいらいよ。

↑
I級生のマケイ矢らしIR。

夏の個人小行記録

- 池の谷-駒(チンネ) 7月9日~13日
山田-池田 馬場島からの入山は交通費が安く良い
- 明神津面(明神橋東陵、五峯中央陵) 8月21日~24日
池田、出島、小谷、桑野
- 美原-八ヶ岳縦走 8月27日-9月2日
池田、新
- 桑沢の岩場(上高地テント5ヶ所)
S状ルンゼ(窪田OB他)
夕夕ミ岩ルンゼ(坂本OB他)
明神西崖(池田他)

—中京支部だより—

樋口 清明

夏山シーズン到来とともに、支部の連中も活ばつな動きをみせ始めた。とはいっても皆暇のないサラリーマン稼業、たまさかの一日乃至二日の山行を重ぬるにすぎない。小林喜芳君、陽子夫人のテレビ結婚、北海道への新婚旅行は全員のネットワークに流れ込：と下から割愛しよう。

名古屋には現在小口君を加えク名、先般、樋口宅で談合の結果、毎月15日6時より栄町喫茶店ラックで例会と聞くこととした。詳細は会ヒ150円欠勤者は翌月100円罰金というかなりシブイもの。折どうなる事やら！これではDB会の会ヒも完納できれば現役のショウも悦ぶことだろう。

7月29日、新しい人を迎える意味と懇親を兼ね、鈴鹿多夫田谷から香川彦谷へハイキングに行く。参加者は樋口、塩谷、小原、久田、小林夫妻、中村、小口、以上名古屋地区居住者全員である。関西方面へ手を延ばすべきだが日時の関係で連絡出来ず関西地区の方々へはお詫びする。

前日の台風もすぎ、本格的な夏晴の日曜。誰もいよいよ鈴鹿の穴をぬらして静かな一日を歩こうと云うので時差登山と活用する。近鉄の登山、海水浴のラッシュをさけ8:50 関西線が富田へ向い、40分も待った上三岐鉄道が東藤原駅で下車する。登山など数年ぶりという塩谷旦那は日傘などさして肥満した体軀をゆっくり、ゆっくり歩を進める。小林夫妻は新輪アツアツのころを口さのないチューンガー連中に冷めさればなし。新人小口君はズクのある処で東藤原駅で買いこんだ大きな西瓜をかつぐはめになる。もっともすぐ皆の腹におさまり、そしてすぐフキジとなって伊勢の海へ流れさつたが。

いずれにせよ皆一緒に山へ行けるとは中京勢の素気天をつくものである。雨が降りた為かせまい石灰岩の侵蝕谷である多夫田谷は道も荒れ、徒渉も下徒渉、気持のいゝ水の中をデブチャブ、テールの手で渡りまたヤブフキを重ぬる。小林旦那は最初のうちは陽子夫人をオンブして渡って皆がらうらやましがるにいたが、そのうちバメンドウクサクなつたのか、お二方とも水遊びをさめるようになった。谷をつめきり尾根にたると、一行は山ヒルの伏兵に襲われ、エライ騒ぎ、は

ういおとしてもけういおとしても山ヒルは後とくす。足は血だらけ、あたら清純な血をむなしく山野に流したのだ。もっとも僕などはケガレ血が体外へ出れば身も心を童貞にかえるだろうと帰りの車の中でヒルを運っていたもんだが。

あちこちで遊び蛇谷峠から青川溪谷へ出たのは5時すぎ。途中野良犬等して風流を楽しみ、浴田の駅は夕陽にけり都合8時間余の強行軍となった。

小林夫人が旦那に今日のゴホウビはとねだるのを横から口の裏いのが南いて「精神的肉体的なフルサービスをします」と云えば小林夫人曰く「肉体的サービスは今夜はためよ。これには皆ギヤフン」まったく下界は暑いことですナー」とため息。こんなリクレーションも今後つづけていくものと思う。いづれ近くの奥西の人とも交流する予定。

<長沈没はボケル> --- K. Yamada

昨年度の夏の奥又白合音では身野、猿橋西OB協力のもとに疲労度測定(脈博、握力、唾液PH、触覚、血圧、尿酸、尿蛋白、赤血球数etc)及び疲労の自覚調査を行った。ケンビ鏡等ももちあげ羨気はみはす、かつ雨が連日雨にふりこめられ、沈没続きでまとまった結果はついに出来なかった。尚自覚調査をまとめて感じを二つあげる。

- | | | |
|-------|-----------|--|
| 被調査者名 | OB及び実働的OB | 小松、身野、猿橋、坂本、小林氏、片岡 |
| 理役 | | 山田、福田、小林実、西郡、小谷、平 |
| 調査日 | 8月1日 | 入山 |
| | 2日 | B, A壁、オ一尾坂(後藤事故の為猿橋、西郡と共に上高地) |
| | 3日 | 沈没 { 3日 小林、猿橋、西郡、片岡、川崎 入山
6日 小松、坂本 入山 |
| | 7日 | |
| | 8日 | 松高ルート、明丸ルート: 北壁-A face、三峯face、北尾坂 |
| | 9日 | 下山 |

調査事項は別表の通り

摘要	(A)										(B)										(C)											
	1頭が重	2頭が重	3頭が重	4頭が重	5頭が重	6頭が重	7頭が重	8頭が重	9頭が重	10頭が重	1頭が重	2頭が重	3頭が重	4頭が重	5頭が重	6頭が重	7頭が重	8頭が重	9頭が重	10頭が重	1頭が重	2頭が重	3頭が重	4頭が重	5頭が重	6頭が重	7頭が重	8頭が重	9頭が重	10頭が重		
出発前		1	1	1	1																											
アプロ-子	1	1	1	2		8	4	4			2											2	1									
岩登り中	2	2	1	1		2	4	5			1			3								6										4
帰途	2	2	2			1	5	1			2	2																				
B.CにT	2	2	3	1			4					1																				

注: 8月8日の行動日。9人中、事柄を交じった者の数

入山日: 池辺ではOB.現役共にA 6,7,8 E多くうったえている。池は荷の重量と中畠新道の道の悪さの爲であろう。池についてからでは現役ではA 7 E うったえる者が多い。OBでは他にA 2,3,5 B 1,2,5,8等 行動中K 又池についてからA 5,7, B 5があるが、これはTとえば前夜深酒(小松氏) 徹夜(茅野、猿橋)ひま(ぶ)の山行(小林、坂本)等の爲であろう。

入山翌日の行動: 出発前にはA 1,3,5,7 B 1,5, C 9等かなり多くあり各自入山の疲労がゆけていぬ様もっている。しかしアプロ-子、岩登りとはんたん調子が出。アプロ-子ではA 6,7, 岩登り中ではA 7 E うったえる者がわずかに出るのみである。とはいっても調子の良好の時にくらべればかなり悪いからあまりむづかしい所はさけた方が良さうにも思う。

沈没中: 3~7日の5日間の沈没は小松さんの例の話や茅野さんの童話どぶしKがさすがに頭へきた。この間わずかではあるがA 1,2,4,7 B 4,5等E うったえている。とくにB 5が多い。毎日ゴロゴロしててもおむいのだから面白い。

長い沈没のあとの行動(8日): 上記の表の通り。ともかく長い沈没後はぜったい無理をしてはいけない。冬へ春小等ではとかく長い沈没があるもの下で充分気をつけていたいものである。

た。黒岳頂上に近くなると奇妙な形をした招き岩がありそれを過ぎると頂上だった。頂上に立つと、さっと強い風が真正面から吹きつけ、ガスが低くまき、さっき迄の太陽はかくれ、たちまち今迄汗ビッショリの身体は寒さでちぢみ上ってしまった。

しかし、眼前に展開された山々にガスで眺望を欠くとはいえ、はっと思いのみにむのを覚えた。180度に近い視野に白いマダラな雪渓がおおむね山頂を覆い、豊かな広がりを見せており、無意識のうちには立山を連想していた。頂上の岩がゴツゴツとこりかえ、ヤッケを着て一休みした。途中では数人の登山者に出会ったが黒岳から先は誰にも行きあぐなう事はなかった。頂上から30分ばかり下った所に小屋があるのでそこで昼食をとろうと思いついたが、どうも外から小屋をみると、中には暗く、ほくほくとした感じがする。外で雪渓に近い風の吹くため凹地をえらんで一人でモグモグ食べたい。風は強く、ガスも依然晴れそうもなく、昼というのに薄暗い感じがする程で行く先の頂上は完全にガスに包まれて、どうみても山は黒いようだ。

とにかく先ける所まで行ってみようと思いつき、左側に有る温泉立入禁止の立札が何本も続き、いやに気になる。誰にも通らないシリシオンになって来たが、ヤッケを着て寒くないし荷も軽いので口笛の一本も本音で吹いて歩いた。遂に俺の登山靴も北海道の山をふんだのだ。それにしても少し天気が悪すぎる。こんなマダラな特徴のない山で道に迷ったら万事休すである。一時間以上歩き続けると登りになりやがて堅くしまった雪渓になった。完全に視界はゼロ。それに雪渓に足跡がほとんどつかない。おそらく北嶺岳への登りであろうが、これ以上行くのは危険であると、やや急な雪渓の上で右向きをして戻り出した。

予定では北嶺-中岳-旭岳-勇駒別温泉の縦走を考えていたが、これではどうも片手だ。黒岳小屋で一泊して翌日縦走するか、しかし明日の天気もわからない。2泊するとはできないので帰る事にきめて脱兎の如く下り出した。帰り道と云うのは往く時程印象はよくないが、一方なぶりおしいような感じがして一歩一歩小まじめだ。それにしても帰るといふ事はうれしい。学会も登山もみんな済んだんだ。

これで道難もせずシヤバへ戻れる。黒岳頂上では何人でもかんでも写真にとりて再び来る事がないであろう。この大雪山の展望に別荘を告げたい。-ベルクハイム-